

2022.8.21 年間第21主日

神の国の宴会の席

ルカによる福音書 13:22-30

イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。

説教

「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。ルカ 13:23

イエスの旅はエルサレムに向かう旅です。当時のイスラエルはローマ帝国の占領下にありました。ユダヤ民族は救われるのか、それともローマの前に崩壊してしまうのか、この問いの裏にはメシアなら国を救ってください、という切実な思いが含まれていたはずで

あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。ルカ 13:

イエスの答えは質問者の期待を裏切りエルサレムは滅びるというものでした。そしてイエスの預言は西暦90年（十字架刑の57年後）に現実となりました。エルサレムの没落を待つことなく、復活のイエスと聖霊に導かれた使徒たちの働きによってイエスの教えは東西南北と世界に広がり、多くの国の人々が「神の国の宴会」の席につき「後の人で先になる者」となりました。多くのユダヤ人たちはローマ軍によって滅ぼされ、残された人々もユダヤの地にとどまることは許されず散らされました。

きょうの福音と同じような箇所はマタイ福音書では山上の説教（7:13、7:22）で語られています。ルカ福音書にも平野の説教といわれる箇所（ルカ6:17-49）がありますがそこには記録されず、イエスの旅の道中のはなしとして収録されました。ルカはマルコ福音書は読んだことがあったかもしれませんが、マタイ福音書のことにはよく知らなかったのかもしれませんが、ルカが福音書を書き下ろした当時ではほかの福音書と読み比べられる時代がくるとはおもっていなかったのでしょう。わたしたちは福音書が四つ残っていることでイエスのことばや行いを詳しく知ることができるのですが、それぞれの福音書で書いてあることが違っていたりすることもあるので戸惑うこともあります。そんなときはどっちの福音書がほんとうのことなんだと詮索せずに読み流してしまえばいいと思います。詮索しだすとむだな対立が始まります。
